

## 学校教育における住居領域の教材開発（Ⅱ）

－かるた教材の開発－

黒 光 貴 峰〔鹿児島大学教育学部（家政教育）〕・中 村 一 絵〔鹿児島県立山川高等学校〕  
徳 重 礼 美〔鹿児島大学大学院教育学研究科〕

### Development of Teaching Materials in the Housing Field of School Education（Ⅱ）

－Development of Teaching Materials based on "Karuta"－

KUROMITSU Takamine・NAKAMURA Ichie・TOKUSHIGE Hiromi

キーワード：家庭科教育、住居領域、教材開発、かるた

#### I. はじめに

本研究は、家庭科教育を充実させるために、教員の苦手意識が強い領域である住居領域の教材開発を行うことを目的としている。そのためⅠでは、住居領域の教材開発の前段階として、教育現場の実態の把握を行い、教材開発の視点を明らかにした<sup>1)</sup>。その結果、本研究では、①プリント・ワークシート・板書カードへ応用できる、②繰り返し利用できる、③視覚的なものである、④安価である、⑤生徒の興味・関心が高い実習につながる、の5つを教材開発の視点とし具体的な教材開発を行った。教材開発プロセスは、1) 教材開発における課題の設定、2) 教育現場の実態把握、3) 教材化、4) プレ授業の実施、5) 教育現場での検証の順に進めた。上記のうち、2) についてはⅠにて確認報告済みである。従って、本報告では、上記2) を前提条件とした上で、1)、3)、4) を取上げ、具体的な開発教材の素案の形成を行うことにした。5) 教育現場での検証については、次報で報告する。

#### Ⅱ. 結果

##### 1. 教材開発における課題の設定

本研究では、先の5つの視点を踏まえ、住居領域の教材として、かるた教材の開発を行った。かるたは、題材を図案化した絵札と、それに関する文字情報の読札で成り立っており、幼児期の子もだけではなく、学童期・思春期、大人など幅広い層に親しまれている。教育現場でも外池<sup>2)</sup>が、歴史的地域の素材を「古里かるた」として教材化している事例や、山下ら<sup>3)</sup>が、身近な食材をテー

マに「食育やさいかるた」として教材化している事例がみられる。

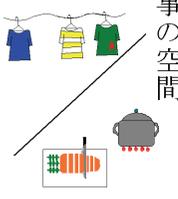
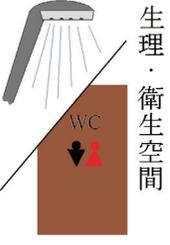
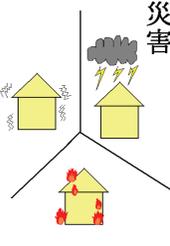
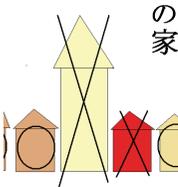
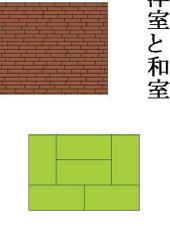
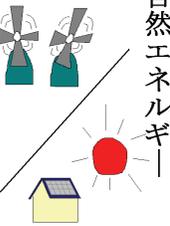
本報告では、かるたの作成手順として、まず、中学校家庭科で使用されている2社の教科書（東京書籍、開隆堂）の分析を行った。そして、かるた教材に応用できる37種のキーワードを抽出し、それを基に読札と絵札の作成を行った。

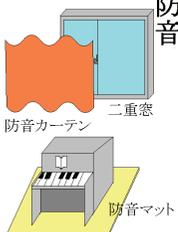
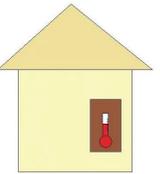
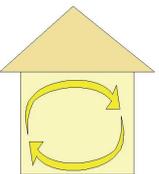
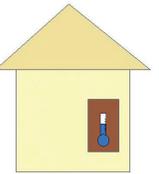
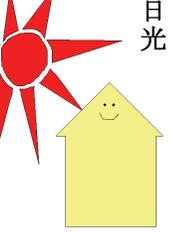
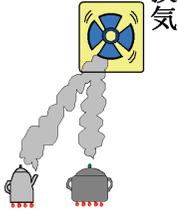
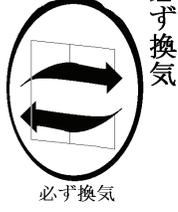
##### 2. 開発した教材の使用方法和活用

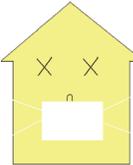
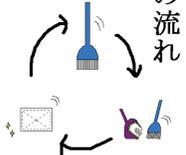
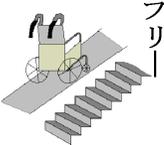
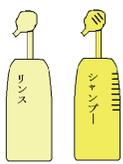
開発した教材の使用方法和活用としては、①演習教材として使用、②板書カードやワークシートとして使用、③オリジナルかるたの作成、の3つを立案した。

①演習教材として使用については、学習効果を高めるために、「導入時」と「まとめ時」において、演習教材として使用できる。「導入時」では、単元のはじめに、かるたを行うことで住居領域全体の学習内容を印象づける効果が期待できる。かるたのキーワードは教科書から抽出したものであり、住居領域全体を網羅できるものになっているため、分野ごと、または、学習の流れごとにかかるた教材を掲示することで、これから学習する内容を把握させることができる。また、学習前にかかるたを行うことで住居領域に対しての興味・関心を高める効果も期待できる。

「まとめ時」では、復習するための教材として活用し、学習した内容を振り返り、学習内容を定着させる効果が期待できる。学習した内容について、かるた遊びを行うことで、学習した内容の定着を促す。

 <p>家事の空間</p>	 <p>共有の空間</p>	 <p>個人の空間</p>	 <p>生理・衛生空間</p>	 <p>休養とくつろぎ</p>
<p>住まいの空間には食事や洗濯などの家事作業の空間がある</p>	<p>住まいの空間には、食事や団らんをとる家族共有の空間がある</p>	<p>住まいの空間には勉強や睡眠をとったりする個人生活の空間がある</p>	<p>住まいの空間には入浴や排せつなどの整理・衛生生活の空間がある</p>	<p>住まいのほたらきには、心身ともに休息でき、楽しくくつろぐことができるほたらきがある</p>
 <p>子どもの成長</p>	 <p>生命と生活を守る</p>	 <p>住まいの事故</p>	 <p>災害</p>	 <p>沖縄の家</p>
<p>住まいのほたらきには、子どもが生まれ育ち、大人も子供も共に成長する場としてのほたらきがある</p>	<p>住まいのほたらきには、雨や風などから私たちの生命と生活を守るほたらきがある</p>	<p>住まいの事故は高齢者と幼児に多い</p>	<p>台風や雷、洪水、地震などの災害に備えて安全対策が必要</p>	<p>沖縄の家 台風の通行経路にあたるため塀が設けられたり、開口部分が広く設けられているのが沖縄の家の特徴である</p>
 <p>京都の家</p>	 <p>北海道の家 急な屋根 二重窓 二重扉</p>	 <p>洋室と和室</p>	 <p>自然エネルギー</p>	 <p>コーポラティブハウス</p>
<p>伝統的な町並みの景観を保護するために京都の家は建築規定が設けられている</p>	<p>北海道の家 防寒のための二重扉や雪かきに便利な急な屋根が北海道の家の特徴である</p>	<p>住まいのフロリングなどの洋室や畳などの和室がある</p>	<p>自然エネルギー 太陽光発電装置など自然エネルギーを活用した住まい方もある</p>	<p>コーポラティブハウス 人々が集まり、土地の購入から建設・建築までを組合方式で建てる集合住宅をコーポラティブハウスという</p>

 <p>防音</p>	 <p>気温</p>	 <p>気流</p>	 <p>湿度</p>	 <p>日光</p>
<p><b>防音</b> 周囲に音が漏れないようにすることを防音という。二重窓や防音マットなどがある。</p>	<p><b>気温</b> 室内環境が快適だと思っひとつの要因として気温があり、室内のエネルギーを上手に管理することが大切である。</p>	<p><b>気流</b> 室内環境が快適だと思っ要因のひとつとして空気の流れている気流がある。</p>	<p><b>湿度</b> 室内環境が快適だと思っ要因のひとつとして湿度がある。</p>	<p><b>日光</b> 日光には、日照効果・暖房効果・乾燥効果の三つの効果がある。</p>
 <p>換気</p>	 <p>騒音</p>	 <p>結露</p>	 <p>ごみ出し</p>	 <p>住まいの汚れ</p>
<p><b>換気</b> 住宅を管理する上で汚れた空気を戸外に出して新鮮な空気を取り入れる換気が必要である。</p>	<p><b>騒音</b> 音はそれを聞く人、場所、大きさ、時間帯によって騒音と呼ばれる公害なる。</p>	<p><b>結露</b> 汚れた空気や水蒸気が室内にこもり生じる結露は住宅木材などの腐敗がすすむ原因になる。</p>	<p><b>ごみ出し</b> 家族や地域でごみ出しなどの住まい方のルールを守っていくことが必要。</p>	<p><b>住まいの汚れ</b> カビや細菌などの住まいの汚れは害虫を発生させるものになる。</p>
 <p>必ず換気</p>	 <p>酸性タイプ</p>	 <p>塩素系</p>	 <p>目に注意</p>	 <p>子どもに注意</p>
<p><b>必ず換気</b> 住宅用洗剤に記載されているこのマークは、洗剤を使用の際は必ず換気して使用することを示すマークである。</p>	<p><b>塩素系と併用不可</b> 住宅用洗剤に記載されているこのマークは、有害なガスが発生することから塩素系の洗剤と併用禁止するマークである。</p>	<p><b>塩素系と併用不可</b> 住宅用洗剤に記載されているこのマークは、有害なガスが発生することから塩素系の洗剤と併用禁止するマークである。</p>	<p><b>目に注意</b> 住宅用洗剤に記載されているこのマークは、洗剤を使用の際は目に入らないように使用することを示すマークである。</p>	<p><b>子どもに注意</b> 住宅用洗剤に記載されているこのマークは、洗剤を使用の際は子どもに注意して使用することを示すマークである。</p>

<p>アレルギー</p> 	<p>シックハウス</p> 	<p>掃除の方法</p> 	<p>掃除の流れ</p> 	<p>掃除上の注意</p> 
<p>アレルギー</p> <p>カビや殺菌、ダニなどの害虫はアレルギーやぜん息の原因になる</p>	<p>シックハウス</p> <p>シックハウス住宅とは、住宅の建材に用いられる化学物質による健康障害のこと</p>	<p>掃除の方法</p> <p>掃除の方法は汚れの種類や性質、汚れが付いているものの材質や状態を把握し適切に行う</p>	<p>掃除の流れ</p> <p>掃除を行う流れは、掃除の計画を立て①準備②実践③整理④見直しの順で行う</p>	<p>掃除上の注意</p> <p>掃除用洗剤などを使用する際、品質表示を良く調べ、用途・使用法に注意して掃除する</p>
<p>バリアフリー</p> 	<p>ユニバーサルデザイン</p> 			
<p>バリアフリー</p> <p>体が不自由な人、障害のある人の行動の妨げになるものをなくそうとする考えをバリアフリーという</p>	<p>ユニバーサルデザイン</p> <p>障害のある人やそうでない人にとっても快適な生活が送れるようにしたデザインをユニバーサルデザインという</p>			

②板書カードやワークシートとして使用については、かるたのサイズは、通常、写真のL版サイズ(幅89mm、高さ127mm)と同じであるが、用途に応じて拡大、縮小することで他の教材としての発展が可能である。住居領域は、扱う学習対象が大きいため、教材として教室に取り入れることが難しいが、かるた教材を拡大し板書カードとして利用することで、多くの学習対象を教室内に取り入れることができる。また、逆に縮小してワークシートとして利用することも可能である。開発した教材のかるたの絵札はイラストを用いている。より実物に近い表現にするために絵札に写真を用いることも検討したが、教材の発展性を優先

して、あえてイラストを使用した。具体的には、写真を用いた場合、カラー印刷されたものは鮮明で見やすいが、モノクロ印刷されたものでは見えにくいという難点がある。ワークシートや配布資料等で利用し、人数分配布することなどを考えると、コストの面からモノクロ印刷に対応できる必要がある。そのため、絵札には写真ではなくイラストでの表現を選択した。

③オリジナルかるたの作成については、地域や生徒の実態に応じて、読札、絵札を後から追加することが可能である。技術・家庭科の学習を進めていく上では、生活を工夫し創造する能力と実践的な態度をはぐくむための指導を充実させること

が必要である<sup>4)</sup>。そのため、指導計画を作成する際には、地域や学校及び生徒の実態を踏まえ、家庭や地域社会と効果的に連携が図れる教材を使用することが望まれる。家庭や地域社会の実態に応じて、オリジナル教材を作成することで、家庭や地域社会における身近な課題を取りあげた教材への発展させることが可能である。

### 3. 開発教材に対応した学習指導案の立案

#### (1) 教材開発の枠組

住居領域の指導計画は、2社（開隆堂・東京書籍）の教科書をもとに全8時間と全9時間のものを立案した。また、本時の指導案では、「導入時」と「まとめ時」の2案を作成した。

#### i) 開隆堂の教科書における指導計画

授業計画（全8時間）	時間数
第一次：住まいのはたらき	1
第1次：住まいの役割と地域独自の住まい方	
第二次：家族と共に住まう	1
第1次：住まいへの願いを確かめよう	
第2次：住まい方のルールを考えよう	1
第三次：健康で快適に住まう	1
第1次：住まいの健康診断をしよう	
第2次：住まいの安全対策を考えよう	1
第3次：健康で快適な室内環境を整えよう	1
第四次：自然と共に住まう	1
第1次：これからの住まい方	
第2次：学習のまとめ	1

#### ii) 東京書籍の教科書における指導計画

授業計画（全9時間）	時間数
第一次：住まいのはたらきとは何だろう	1
第1次：住まいの役割と日本の住まい方	
第二次：家族と住まうかわりを考えよう	1
第1次：生活行動と住空間	
第2次：家族と住まい	1
第三次：健康で心地よく住むために	1
第1次：健康を考えた住み方	
第2次：住まいの清掃と手入れ	1
第四次：安全に住むにはどうしたらよいらだろう	1
第1次：家庭内事故の防止	
第2次：災害に備えた住み方	1
第五次：よりよい住まいと住み方を考えよう	1
第1次：自分らしい住まい	
第2次：学習のまとめ	1

### 学習指導案（略案）：導入時

**学習指導案① 本時 導入時**

(1) 本時の目標

- 家族が住む住居の基本的な機能（はたらき）について理解する。
- 日本人の住まいとその特徴を理解する。

(2) 本時の評価規準

学習指導要領との関連

学習指導要領	本時の学習活動	本時の学習活動	本時の学習活動
住居に関する知識を学ぶ	住居について関心や疑問を抱く。	住居の中で使われている材料や設備について学ぶ。	住居の構造や設備について学ぶ。
住居の役割や機能について学ぶ	住居の役割や機能について関心や疑問を抱く。	住居の役割や機能について学ぶ。	住居の役割や機能について学ぶ。
住居の役割や機能について学ぶ	住居の役割や機能について関心や疑問を抱く。	住居の役割や機能について学ぶ。	住居の役割や機能について学ぶ。
住居の役割や機能について学ぶ	住居の役割や機能について関心や疑問を抱く。	住居の役割や機能について学ぶ。	住居の役割や機能について学ぶ。

○ 評価を重視している学習活動

(3) 学習過程

過程	学習の流れ	時間	教員の支援と留意点	教材・教具
導入	はじめ	3分	1 住居かるたのイラストを見る。	1 住居かるた（板書用）
	2 グループに分かれ、住居かるたを住居領域の分野に分けさせる。		2 住居かるた	
	3 机間巡視により活動の様子を確認し、活動が円滑に進んでいるか確認する。	10分	4 必要に応じて活動が円滑に行えるよう支援する。	
	4 必要に応じて活動が円滑に行えるよう支援する。			
	5 班ごとに発表する。	3分	6 生徒の答えに応じて、説明を行う。	
	7 住居かるたについての説明を受け、発表を受ける。			

### 学習指導案（略案）：まとめ時

**学習指導案② 本時 まとめ時**

(1) 本時の目標

- 学習した内容を振り返りこれからの生活に活用できる知識や技術について再度確認する。
- 本時の評価規準（導入時と同じ）

(2) 本時の評価規準

(3) 学習過程

過程	学習の流れ	時間	教員の支援と留意点	教材・教具	
導入	はじめ	5分	1 今までの住居かるたを大まかに振り返らせる。	1 住居かるた（板書用）	
	2 学習課題の設定		2 ワークシート		
	3 グループに分かれ、住居かるたを行いながら今までの住居領域での学習を振り返らせる。	15分	4 机間巡視により活動の様子を確認し、活動が円滑に進んでいるか確認する。	3 住居かるた	
	5 必要に応じて活動が円滑に行えるよう支援する。				
	6 今までの学習を振り返りワークシートの振り返り項目を記入させる。	6分	7 グループに分かれ、自分ができるこれからの生活に生かせる工夫を話し合おう。	6 住居かるたワークシート	
	7 グループに分かれ、自分ができるこれからの生活に生かせる工夫を話し合おう。				
	展開	8 机間巡視により活動の様子を確認し、活動が円滑に進んでいるか確認する。	20分	9 活動の進み具合を見て、適切な助言を行う。	7 住居かるたワークシート
9 活動の進み具合を見て、適切な助言を行う。					
10 班ごとに発表する。		5分	10 班ごとに自分の意見を発表させる。（予想される反応） ・ 照明器具をきれいに拭く ・ 整理整頓し、物の配置を固定する ・ 家事の分担をする	10 住居かるた（板書用）	
11 生徒の答えに応じて、補足を行う。12 本時のまとめをする。					
終		12 本時のまとめをする。	5分	13 自分ができる工夫を行い、これからの生活をより良くしていく。	12 板書カード
		13 自己評価		13 ワークシート	

## (2) 題材設定の理由

### 1) 教材観

教材観としては、大きく3つあげられる。

1点目は、「使いやすさ」である。限られた授業時間の中で、有意義な学習を進めるためには、教材の使いやすさは重要な要素である。そのため、教材の使用方法は、シンプルで分かりやすいことに配慮し、誰でもすぐに使えるということを中心とした。当教材の使用方法は、昔ながらの遊びである「かるた」を基にしたものであり、学習者の経験した割合が高い身近な方法である。

2点目は、「低予算」である。実際の教育現場では、1つの教科(家庭科)にかけられる予算は限られている。そのため、低予算で使用できる教材ということを中心とした。当教材に必要な消耗品は、印刷用紙・インクの2つだけである。作成する方法も、現在の教育現場の環境で十分対応できるものである。また、必要なものを選択し、必要な絵札・読札、枚数だけを作成、使用することも可能である。このように教育環境に対応した低予算で使用できる教材であり、授業の実態に応じて使用することができる汎用性の高い教材である。

3点目は、「住居領域での演習教材」である。家庭科の他領域では、例えば、食物領域では調理実習、被服領域では被服製作、保育領域では幼稚園訪問などの学習活動が取り入れられている。しかし、住居領域では演習形式の授業は難しく、教材開発事例も少ない。そのため、授業内でも演習が行えるということを中心とした。

### 2) 生徒観

学習者の生徒観を明らかにするために、アンケート調査を行った。調査時期は、2008年11月、調査対象は、鹿兒島県内の中学生である。調査内容は、①家庭科の好き嫌いとその理由について、②好きな授業形態、③かるたの経験についてである。結果についての詳細は、Iを参照とする<sup>5)</sup>。

生徒が好きな家庭科の領域として、食物領域と被服領域があげられていた。その理由としては、調理実習や被服実習などの実習が授業内で行われているためという回答であった。好きな授業形態としても実習や実験をする授業という回答が多

く、生徒が好む授業形態であるといえる。住居領域への意識としては、好き、嫌いというよりも、どんな内容か分からないといった回答が多く、また、小学校において住居領域の学習経験がない者もいたため、しっかりとした学習の機会が必要であるといえる。

### 3) 指導観

住居領域は、生徒自身が生活の場で決定する場面が少ないことから興味・関心が低い。そのため、指導する上では、生徒に題材をイメージしやすくする、生徒の興味・関心を高めることを重視した。本研究では、昔からの遊びである「かるた」を導入することで、住居領域が難しいという意識や、内容が分からないといった興味・関心の低さを取り除こうと考えた。また、かるたを使用することで、学習内容を分野ごとに分類したり、キーワードとして捉えさせたりすることで、学習内容の明確化を図った。

## 4. ヒアリング調査の実施と開発教材の改善

開発教材の有効性を検討するために、鹿兒島県の中学校の技術・家庭科(家庭分野)および高等学校家庭科の教員に対して、ヒアリング調査を行った(表1)。

表1. ヒアリング調査概要

調査目的	開発教材の有効性の検討
調査対象	鹿兒島県内の中学校教諭 鹿兒島県内の高等学校教諭
調査日	2009年12月8日・14日
調査項目	・開発教材の印象 ・教育現場で実践するための課題

### 1) 開発教材の印象

開発教材の印象については、「家庭科の中でも住居領域は、教えるにくいという意識が高く教材が開発されればと教育現場は授業がしやすくなる」という回答が得られた。また、「住居領域は、実習等の活動が行いにくいいため、演習形式のかるた教材の利用価値は高い」、「教材そのものに様々な可能性があり、教員の指導目的によって活用の仕方にも幅ができる」という回答も得られた。

かるたという教材については、「生徒達が実際に楽しみながら学習できる良い教材である」、「実習形式で行うことが可能であり、楽しみながら学習できる良い教材である」、「これらを基に教員が新しいカードを作成するなど発展性が高い教材である」という回答が得られた。

## 2) 教育現場で実践するための課題

教育現場で実践するための課題としては、「様々な使い方が考えられる住居かるたであるため、開発側が考えた教材の活用方法と具体的な指導計画をまとめたものが必要である」、「演習にかかる時間は」、「演習に可能な人数は」、「カードの大きさや紙質は適当か」という回答がみられた。今後、教育現場でスムーズに普及していくためには、①具体的な指導案の作成、②演習にかかる時間、③演習時の人数、④カードの大きさ・紙質、などをさらに検討していく必要がある。

## 5. プレ授業の実施と開発教材の改善

ヒアリング結果を踏まえた後、開発教材を教育現場で実践する前に、かるたを使用した授業のプレ授業を行なった（表2）。プレ授業実施の目的は、実際の授業がスムーズに行えるかどうかの検討である。視点としては、1) 所要時間と演習の様子、2) 教材の使いやすさと改善点、3) 開発教材を使用した演習の印象である。

表2. プレ実施概要

実施目的	開発教材の有効性の検討
実施対象	鹿児島大学教育学部家政専修の学生
調査日	2009年12月7日
実施項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所要時間と演習の様子</li> <li>・教材の使いやすさと改善点</li> <li>・開発教材を使用した演習の印象</li> </ul>

### 1) 所要時間と演習の様子

演習における所要時間は、10分程度であった。プレ授業の対象者は大学生であるため、中学生で実施する場合は、多少の時間を考慮する必要があるが、そのことを踏まえても当開発教材は授業時間内に納まるであろうことが分かる。



写真1. 全部の絵札を並べた様子



写真2. プレ授業の様子

### 2) 教材の使いやすさと改善点

演習については、全員が「おもしろかった」と回答した。また、演習内容についても、全員が「適当だった」と回答した。教材の使いやすさと改善点については、読み札に関して、「文章が見にくい、読みにくい」といった回答が得られた。また、紙質に関しては、「何度も使用していくなかで教材の傷みが大きいのでは」という指摘があった。かるたの大きさについては、「全てのかるたを机に並べるには窮屈である」という指摘があった。

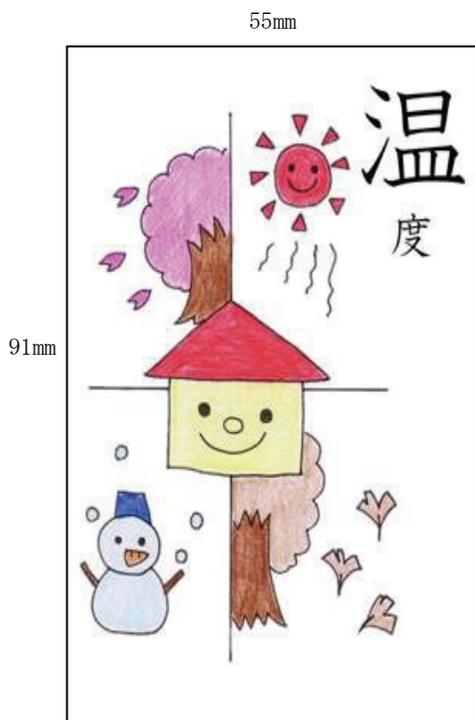
### 3) 開発教材を使用した演習の印象

開発した教材を使用した演習の印象は、「かるた教材を使用することで、授業自体が楽しく行えた」という回答が得られた。また、「イラストやキーワードばかりに気を配るのではなく実際に読んでいる内容を頭で考えて絵札を探すことができ、学習内容が頭に残った」という回答も得られた。

また、「読み手が、読み札の読み方を工夫することでかるたの活動が一層充実したものになった」という回答も得られ、学習効果も期待できる。読み方の工夫例としては、①キーワードをあえて読まずに読み札を読む、②強弱やスピードを変えて読み札を読む、③似た内容の読み札を連続して読むことで違いを認識させる、などが挙げられた。

### 6. 開発教材の修正

以上、ヒアリング調査およびプレ授業から得られた結果を基に、①読み札の行間と改行、②紙質、③大きさ、の3つの改善を行った(次ページ参照)。①に関しては、読み手が読みやすいように、行間や改行、表現等の改善を行った。②に関しては、教員が印刷しやすい用紙を使用し、傷みにくいラミネート加工などで対応した。③に関しては、写真のL版サイズ(幅89mm、高さ127mm)を使用していたが、名刺サイズ(幅55mm、高さ91mm)に変更した。



実際のかるたの大きさ(名刺サイズ)

### Ⅲ. 教材開発からの考察

本研究では、①プリント・ワークシート・板書カードへ応用できる、②繰り返し利用できる、③視覚的である、④安価である、⑤生徒の興味・関心が高い実習につながる、の5つを視点に、一連の手順に従って教材開発を行ってきたが、ヒアリング調査、プレ授業を行った結果、実際の教育現場でもほぼ受け入れられることが確認された。次報では、実際の教育現場(中学校)で開発したかるた教材を使用した授業を実施し、開発教材の有効性の検討を行う。

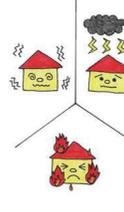
### 謝辞

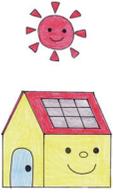
本研究を進めるにあたり、ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

本報告は、平成21年度鹿児島大学教育学部家政教育専修：四元梨絵氏の卒業論文「中学校技術・家庭科(家庭分野)の住居領域における教材開発」に加筆、修正を加えたものである。また、本研究は、科学研究費補助金(平成21年度～平成22年度 若手研究(B) 課題番号21700733 新学習指導要領に対応した家庭科教育の授業研究—地域性を生かした住居領域の教材開発— 研究代表者 黒光貴峰)に基づく研究の一環として行われたものである。

### 参考文献

- 1) 黒光貴峰他, 学校教育における住居領域の教材開発(I)―かるた教材の組み立て―, 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第23巻
- 2) 外池智, 歴史的地域素材の教材化とその特徴―「古里かるた わたしたちの八橋, 寺内」を事例として―, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第25号(2003)
- 3) 山下浩子, 廣畑一代, 江越和夫, 尾形壽子, 眞谷智美, 高松幸子, 横川洋, 地域特産農産物を活用した食育教材開発プログラム, 久留米信愛女学院短期大学研究要 第30号 35-43(2007)
- 4) 文部科学省, 中学校学習指導要領解説技術・家庭編, 教育図書(2008)
- 5) 1)と同じ

 <p><b>家事作業の空間</b></p>	 <p><b>食事や団らんの空間</b></p>	 <p><b>個人生活の空間</b></p>	 <p><b>生理・衛生空間</b></p>	 <p><b>休養とくつろぎ</b></p>
<p>住まいの空間には、家事や洗濯などの<b>家事作業の空間</b>がある。</p>	<p>住まいの空間には、家族が集まる<b>食事や団らんの空間</b>がある。</p>	<p>住まいの空間には、勉強や睡眠をとったりする<b>個人生活の空間</b>がある。</p>	<p>住まいの空間には、排泄・入浴・洗面などを行う<b>生理・衛生空間</b>がある。</p>	<p>住まいには、心身ともに安らぎ楽しく過ごすことができる<b>休養とくつろぎの場</b>はたらきがある。</p>
 <p><b>家庭生活の場</b></p>	 <p><b>生命と生活を守る場</b></p>	 <p><b>住まいの事故</b></p>	 <p><b>自然災害</b></p>	 <p><b>防音</b></p>
<p>住まいには子どもが生まれ育ち大人も子どもと共に成長する<b>家庭生活の場</b>としてのはたらきがある。</p>	<p>住まいには、雨や風、外敵から<b>生命と生活を守る場</b>としてのはたらきがある。</p>	<p>不注意だけでなく、心身の特性からくるものや、建築・設備面で安全性が配慮されていないなどの問題が<b>住まいの事故</b>の原因にあげられ、幼児と高齢者に多い。</p>	<p>住まいは、台風、雷、洪水、地震などの<b>自然災害</b>に備えて安全対策が必要である。</p>	<p>周囲に音がもれないようにすることを<b>防音</b>という。防音する方法としては二重窓や防音マット等がある。</p>
 <p><b>沖縄の家</b></p>	 <p><b>京都の家</b></p>	 <p><b>北海道の家</b></p>	 <p><b>和室と洋室</b></p>	 <p><b>コーポラティブハウス</b></p>
<p>台風の経路にあたるため樺が設けられたり、屋根の傾斜がゆるやかなのが、<b>沖縄の家</b>の特徴である。</p>	<p>伝統的な町並みの景観を保護するために<b>京都の家</b>は建築の規定が設けられている。</p>	<p>防寒のための二重窓や雪かきに便利な急な屋根が<b>北海道の家</b>の特徴である。</p>	<p>住まいには、たたみ等の<b>和室</b>やフローリング等の<b>洋室</b>がある。</p>	<p>コーポラティブハウス人々が集まり、土地の購入から建設までを組合方式で建てる集合住宅を<b>コーポラティブハウス</b>という。</p>

 <p><b>自然エネルギー</b></p>	 <p><b>温度</b></p>	 <p><b>気流</b></p>	 <p><b>湿度</b></p>	 <p><b>日光</b></p>
<p><b>自然エネルギー</b> 太陽光発電装置など 自然エネルギーを活用した 住まいもある。</p>	<p><b>温度</b> 室内環境が快適だと思ふ要因の一つとして<b>温度</b>があり、 ①室内の温度のむらがなくす、 ②外気温との差を大きくしないなどの点に注意する。</p>	<p><b>気流</b> 室内環境が快適だと思ふ要因の一つとして<b>気流</b>の流れていること、 <b>気流</b>があり、風通しなど通風を考へることが大切である。</p>	<p><b>湿度</b> 室内環境が快適だと思ふ要因の一つとして<b>湿度</b>があり、 湿度が高いと不快に感じるだけでなく、カビやダニ等が発生しやすくなり、アレルギーの原因になる。</p>	<p><b>日光</b>には、 日照・暖房・乾燥の効果がある。</p>
 <p><b>換気</b></p>	 <p><b>騒音</b></p>	 <p><b>結露</b></p>	 <p><b>ごみだし</b></p>	 <p><b>シックハウス</b></p>
<p><b>換気</b> 室内を快適に保つためには、 汚れた空気を戸外に出して 新鮮な空気を取り入れる <b>換気</b>が重要である。</p>	<p><b>騒音</b> 音は、それを聞く人、場所、 大きさ、時間帯によって <b>騒音</b>と呼ばれる公害に なる。</p>	<p><b>結露</b> 汚れた空気や水蒸気が 室内にこもり生じる<b>結露</b>は、 住宅の腐敗がすむ原因になる。</p>	<p><b>ごみだし</b> 家族や地域で<b>ごみだし</b>等の 住まいの方のルールを守っていく ことが必要。</p>	<p><b>シックハウス</b> 住宅の建材に用いられる 化学物質が原因で発生する 健康障害のことを <b>シックハウス</b>という。</p>
 <p><b>子どもに注意</b></p>	 <p><b>塩素系と併用不可</b></p>	 <p><b>酸性タイプと併用不可</b></p>	 <p><b>必ず換気</b></p>	 <p><b>目に注意</b></p>
<p><b>子どもに注意</b> 住宅用洗剤に記載されている このマークは、洗剤使用の際は、 <b>子どもに注意</b>して使用する ことを示すマークである。</p>	<p><b>塩素系と併用不可</b> 住宅用洗剤に記載されている このマークは、有害なガスが 発生することから <b>塩素系タイプと併用</b>を不可 することを示すマークである。</p>	<p><b>酸性タイプと併用不可</b> 住宅用洗剤に記載されている このマークは、有害なガスが 発生することから <b>酸性タイプと併用</b>を不可 することを示すマークである。</p>	<p><b>必ず換気</b> 住宅用洗剤に記載されている このマークは、洗剤を使用の際は <b>必ず換気</b>して使用することを 示すマークである。</p>	<p><b>目に注意</b> 住宅用洗剤に記載されている このマークは、洗剤を使用の際は <b>目に入らないように注意</b>して 使用することを示すマークである</p>

 <p><b>住</b> まいの汚れ</p>	 <p><b>ア</b> レルギー</p>	 <p><b>住</b> まいの手入れ</p>	 <p><b>掃</b> 除の流れ</p>	 <p><b>掃</b> 除上の注意</p>
<p><b>住まいの汚れ</b> 汚れの種類や性質、 汚れがついている物の材質や 状態を観察し、それに合う 方法で <b>住まいの汚れ</b> は 取り除く。</p>	<p><b>アレルギー</b> カビや殺菌、ダニなどの害まは ぜん息や <b>アレルギー</b> の 原因となる。</p>	<p><b>住まいの手入れ</b> 私たちが快適に過ごしたり、 住まいを長持ちさせるためには、 <b>住まいの手入れ</b> が 必要である。</p>	<p><b>掃除の流れ</b> 掃除は、①準備、②実践、 ③整理、④見直しと <b>掃除の流れ</b> を立てて、 計画的に行う。</p>	<p><b>掃除上の注意</b> 掃除用洗剤を使用する際は、 品質表示、用途・使用方法など <b>掃除上の注意</b> をよく調べて 行う。</p>
 <p><b>バ</b> リアフリー</p>	 <p><b>ユ</b> ニバーサルデザイン</p>			
<p><b>バリアフリー</b> 体が不自由な人、障害のある 人の行動の妨げになるものを なくそうとする考えを <b>バリアフリー</b>という。</p>	<p><b>ユニバーサルデザイン</b> 障害のある人やそうでない 人にとっても快適な生活が送れる ようにしたデザインを <b>ユニバーサルデザイン</b>と いう。</p>			